

日本の展望委員会 大学と人材分科会（第4回）議事録

1. 日時：平成21年3月12日（木）15:00 – 18:00
 2. 場所：日本学術会議 5-C(1) 会議室
 3. 出席：金澤会長、笠木、青柳、馬越、大垣、金子、北原、佐藤、高橋、
中西、永原、平松、益田、森田
欠席：郷、三田
 4. 配付資料
 - (1) 前回議事録（案）
 - (2)-1 大学の役割と人材の育成（青柳）
 - (2)-2 中教審大学分科会の審議状況について（金子）
 - (3) 「日本の展望」作成の作業について（メモ）
 - (4) 第4期科学技術基本計画に向けた作業工程の見通し
 - (5) 大学と人材分科会論点のまとめ（笠木）
 - (6) 日本の展望委員会 大学と人材分科会における審議の概要（作業ファイル）
 - (7) 第4期科学技術基本計画に盛り込むべき事項に関する検討（未定稿）
 - (8) 論点整理 回答集計
 - (9) 日本の展望委員会 各テーマ別分科会に関連する意思の表出（第15-17期）
- 参考資料
- (1) 起草委員会「日本の展望—学術からの提言2010」骨子（イメージ）案
 - (2) 第1期～第3期科学技術基本計画の比較
 - (3) 科学技術基本計画における重要課題に関する提言
 - (4) 日本の展望委員会 大学と人材分科会名簿

5. 話題提供

(1) 金澤会長：総合科学技術会議および産学フォーラムの動向について

総合科学技術会議からすれば、日本学術会議での議論、特に当分科会への期待が大きいこと、総合科学技術会議が議論の対象とするのは大学院のみであること、2000 億円程度の資金を大学院に投じているが人材育成について満足すべき結果がえられておらず、人材育成のあるべき姿を考える必要があると考えていることなどが述べられた。例えば、流動性を確保するために出身大学に留まるべきでない、人材育成道場の必要性などは本当か、国立と私立の関係をどのように考えるか、一緒にして統計値だけで競わせて良いか、法人化後の国立大学の足かせになっているものは何か、などの論点が挙げられた。

産学フォーラムでは、企業側から日本の大学の博士教育に意見が多いことが報告された。

以上の現状に鑑み、本分科会では多様な人材作りを主張するのがよいのではないかということが会長より述べられた。

(2) 青柳委員：大学の役割と人材の育成について

還元論と全体論の視点から、近年の全体論の高まる必要性と未熟さが指摘された。多様性の確保が重要であること、日本の博士は視野が狭すぎて応用力が獲得できていないこと、日本の人材育成のありかたとしては、現状の様なレベルの高原から、丘陵（突出部分）のある高原に転換する必要が指摘された。そのため、研究者の構造化、英語力の向上、構想力の向上、外国籍研究者の導入、戦略・戦術の向上、異質手法の導入などが必要であることが述べられた。

(3) 金子委員：中教審における審議状況について

現在は日本の高等教育に関する転換点にあり、量から質への転換の時期であることが指摘された。産学の関係では、アウトカム指向が強まり、大学の機能分化論が経済財政諮問会議で出ている。一方、経済の不調により、教育機会の不均衡が経済化している。また、中教審での議論としては、大学統廃合、認証評価準則主義のみなおし、国立大学法人の評価と交付金、教育の適正量的規模、グローバル化などの議論が始まっていることが紹介された。

(4) 佐藤委員：初等中等教育について

教員養成が、教員の質と量という2つの問題に直面していることが指摘された。かつては大学卒教員による質の高さが維持されたが、国際的に見て今後は大学院修了者を教員として育成する必要がある。現職者も含めて、修士相当にしていく必要がある。初等中等教育においては少人数教育について予算措置がないこと、パート教員が増加していること、教員育成に関しては地方国立大学の役割が重要であること、専門職大学院の見直しが必要であること、等が述べられた。

6. 論点整理と基本計画提言事項について

(1) 審議概要

資料に基づき、委員より提出された原稿のとりまとめ、第4期科学技術基本計画に盛り込むべき事項、について笠木委員長より説明があった。

(2) 論点のまとめと議論

笠木委員長より、分科会として明確にすべき7点について説明があり（資料(5)）、理想的な大学進学率、大学教育の目標、大学機能分化の是非、私立大学のあり方、大学入試制度等についてについて議論がおこなわれた。

7. 今後の方針

日本の展望委員会へ3月16日までに提出する中間報告は、これまでの議論内容を併記したものとすることが委員長より提案され、その具体的なまとめは委員長に一任することとした。（その後、原稿がメールで各委員へ送付され、確認された後、提出された。）

8. 次回分科会は、4月または5月をめざして、日程調整を行うこととした。

(以上)